欅を、君に。(2)

（陸上部に所属する高校一年生の倉本歩は、九州瀬戸内駅伝の登録選手に選ばれず、トイレで涙を流していました。そこに、二年生の畑谷さんが声をかけてきました。）

「まだ、誰かいるの？」

いきなり扉の向こうから声をかけられたから、飛び上がりそうになる。

畑谷さんだった。

「あ、すみません。すぐに出ます」

「早く着替えてね。警備員さんが戸締りに来るから」

慌てて顔を拭い、更衣室へと走る。外から窺うと、中に人がいた。声が聞こえる。

様子がおかしい。

ぼそぼそと声を潜めて話す合間に、呻き声が聞こえる。歩と同じようにメンバーに選ばれなかった人が泣いてるんだろうか？

音をさせないように扉を開くと、集まっていたのは三年生の部員達だった。南原さんも含めて、四人が勢揃いしていた。

輪の中心でタオルに顔を埋めているのは――。

河合先輩だった。

「ホナは、高校に入ってから、怪我に泣いたもんね。腐らずに、よく頑張った」

南原さんの声だった。

河合さんはタオルに顔を埋めたまま、感極まったように南原さんに抱きついた。

「ナンちゃん、ありがと。みんなも……」

「頑張ろう。一緒に頑張ろうね」

「最後の年だもん」

そのまま立ち尽くす。

①自分と河合さんとの差が分かった気がした。

大会にかける思いの強さだ。何処かで「まだ次がある。来年がある」と考えている自分と「今年で最後」と執念を燃やす最上級生。

②改めて見ると、体も随分と絞れている。

復帰してからの河合さんは本当に、こつこつと練習していた。皆が走り終えた後も、一人だけ残って練習していたり――。誰よりも入念にストレッチや体幹トレーニングをこなしていたのも、怪我を用心しての事だった。

いや――。

恐らく、復帰前から補強やストレッチなど、かなり熱心にやっていたのだろう。

その差はおのずと、走る時の気迫に現れていた。

③――頑張ってサポートしないと。

裏方として、先輩方の最後の大会をお手伝いさせてもらおう。

自然と※殊勝な気持ちになっていた。

（蓮見恭子『欅を、君に。』光文社 による）

※殊勝…けなげで感心なさま。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「自分と河合さんとの差」とは何か。本文中から十字以上十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

□□□ ～ □□□

(2) ――線②「改めて見ると、体も随分と絞れている」とあるが、これはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 改めて河合さんの姿を見ると、最後の大会に向けて強い思いで臨（のぞ）んでいることがわかるということ。

イ 改めて自分の姿を見ると、どこかで次があると考え、練習をおこたってきたことがわかるということ。

ウ 改めて最上級生の姿を見ると、三年生の四人がこれまで過ごしてきた絆（きずな）の強さがわかるということ。

〔　　〕

(3) ――線③「頑張ってサポートしないと」とあるが、歩はなぜこのように思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 自分が選ばれなかったことを改めてくやしく感じ、裏方の仕事を通じて自分と河合さんとの差を知りたいと思ったから。

イ 最後の大会に対する最上級生たちの強い思いを知り、自分も大会に臨む最上級生を裏方として支えたいと感じたから。

ウ 今回が最後の大会だと執念を燃やす最上級生に対して、自分はこの大会が最後ではないと気楽に考えたから。

〔　　〕